

秦野市弘法山公園におけるアカコッコの観察記録

加藤ゆき・重永明生

Yuki Katoh and Akio Shigenaga: Sight Records of Izu Islands Thrush

Turdus celaenops in the Koboyama-Park in Hadano City, Kanagawa Prefecture

はじめに

アカコッコ *Turdus celaenops* は、伊豆大島から青ヶ島にかけての伊豆諸島に留鳥として生息し、トカラ列島に夏鳥として渡来し、この2地域で繁殖が確認されている。また、千葉県や埼玉県、愛媛県、宮崎県などで迷鳥として記録されている（日本鳥学会、2000）。日本の固有種であり、国から天然記念物に指定される一方、環境省発行のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている希少な種である（山本、2002）。

筆者の一人である重永は、本種1個体を秦野市内の総合公園にて観察したので、ここに報告する。なお、本文中の学名は日本鳥類目録改訂第6版（日本鳥学会、2000）によった。

観察地および観察方法

観察地は秦野市曾屋の弘法山公園である。ここは秦野

市の東部に位置し、丹沢山地の南麓にあたる。面積は20.1ha、サクラの名所として親しまれている総合公園である（秦野市、2005）。観察地点は、園内の南西にあたる権現山（標高243.5m）の北西斜面である（図1）。2005年4月8日午前5時過ぎ、野鳥を観察していたところ、雑木林の林床で、50羽以上のツグミ類が採餌をしているのを見つけた。そのなかに、アカハラ *Turdus chrysolaus* と明らかに羽色が異なる個体を発見した。さらに観察を続け、形態と行動を記録した。その後、カメラを取りに戻るために、一時その場を離れ、午前7時過ぎに戻ったが、発見することはできなかった。9日以降も観察を続けたが、当該個体を発見することはできなかった。

当日の天候は晴れ、観察者と当該個体の距離は最も近いときで10m前後であった。観察方法は目視および双眼鏡（10×50）によった。写真は撮影できなかった。

形態と行動

当該個体の大きさは、アカハラとほぼ同じ大きさであった。体色は、頭部から頸、胸までが黒く、胸から腹にかけて濃い橙色、下尾筒は褐色斑のある白色、体の上面は赤みがかった褐色であった。嘴は黄色、黄色いアイリングがはっきりとみられた。風切は、少し茶色がかった黒色であった。眉斑はみられなかった。尾の上面は黒色、下面は褐色であった。脚は黄土色であった。

当該個体は、10m四方ほどの、ほとんど低木がないサクラが植樹されたゆるやかな斜面で、地上を跳び歩いては立ち止まり、落ち葉を嘴でめくりながら、昆虫類を採食していた。時折、倒木の上に跳び上がり、水平よりは

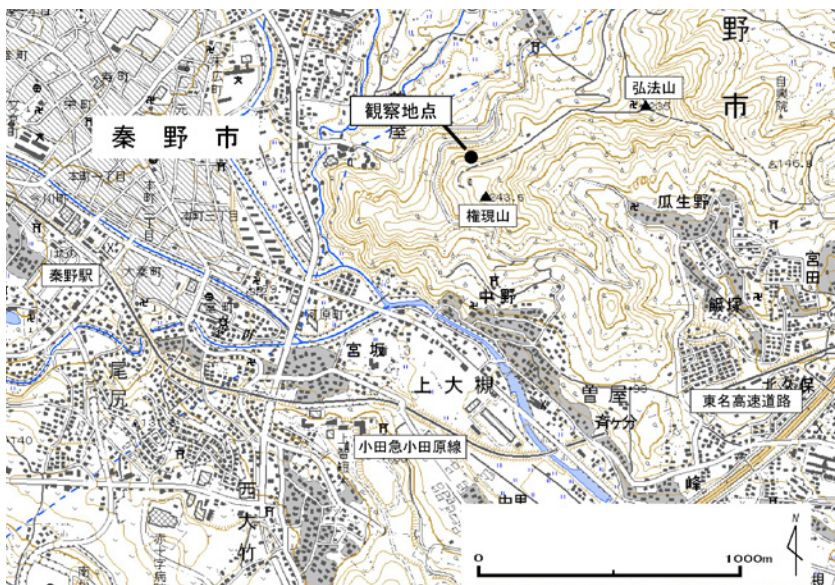


図1. 観察地点（●）
（地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図（秦野）を使用）

体を立て、尾を下へおろすような姿勢をとった。周囲には、シロハラ *Turdus pallidus* やアカハラ、ツグミ *Turdus naumanni* が 50 羽以上も群れ、同様の行動をしていた。

同 定

山階 (1985) および叶内 (1998) を参考に、以下のことから、観察された個体は、アカコッコの成鳥オスであると判断した。

形態からツグミ科の一種であることは明らかであった。外部形態が似ている種で日本において定期的に記録があるのは、アカハラとマミチャジナイ *Turdus obscurus* である。しかし、以下の点において、この 2 種と区別できた。

1. 眉斑がなく、黄色いアイリングがはっきりとみられたこと。
2. 頭部から胸にかけて黒色であったこと。
3. 胸の黒色と橙色の部分の境がはっきりとしていたこと。
4. 尾の上面が黒色であったこと。

また、日本でまれな冬鳥または旅鳥として記録がある、アカハラの一亜種、オオアカハラ *T.c.orii* のオスと外部形態が非常によく似ているが、以下の点で区別できた。

1. 翼の風切部分が黒色を帯びていること。
2. 胸の黒色と橙色の部分の境がはっきりとしていること。
3. 嘴の黄色がはっきりとしていること。
4. 尾の上面が黒色を帯びていること。

雌雄は以下の点でオスと判断した。

- ・ 頭部から胸部にかけて黒色であること。

年齢については以下の点で成鳥と判断した。

- ・ 頭部から胸にかけて黒色で、喉には白色部がまったくみられないこと。

考 察

今回は、写真等の映像の客観的な記録は残せなかったが、春期の渡りの時期に、渡りの途中と思われるツグミ類とともに、当該個体が観察されたことは、非常に興味深い。冬期には、伊豆諸島から伊豆半島に移動する個体があるとされ (山本, 2002)、実際に静岡県下田市では 1996 年 2 月 29 日 (同年 3 月 3 日に放鳥) に標識調査により確認されている (山階鳥類研究所, 1997)。

神奈川県における本種の記録は、1986 年 12 月 8 日に真鶴半島で観察されたものが初めてで、以後、1997 年 3 月 8 日に横須賀市で記録されている (日本野鳥の会神奈川支部, 2002)。本州では迷鳥とされ、主に太平洋側の都県で記録されているが (日本鳥学会, 2000)、本種はアカハラやマミチャジナイと外部形態の類似点が多く、特にメスの個体は、野外での同定が難しいため、今まで観察されても見逃されていた可能性が高い。

今後、渡りの時期に観察されるツグミ類の群れに注目すれば、県内をはじめ、関東を中心とした太平洋側の地域で観察記録が増える可能性があり、本種の生態を解明する上で重要な手がかりとなるとと思われる。

参考文献

- 叶内拓哉, 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥, 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 日本鳥学会編, 2000. 日本鳥類目録改訂版第 6 版, 345pp. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 2002. 20 世紀神奈川の鳥— 神奈川県鳥類目録 IV —. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.
- 山本 裕, 2002. アカコッコ. 環境省編. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物— レッドデータブック— 2 鳥類, pp. 210–211. 自然環境研究センター, 東京.
- 山階鳥類研究所, 1997. 平成 8 年度鳥類標識調査報告書, 219pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階芳麿, 1985. 日本の鳥類と其の生態第一巻 (復刻版), 524pp. 出版科学総合研究所, 東京.

電子文献 (ウェブサイトからの引用)

- 秦野市公園みどり課, 2005. 都市公園等一覧表, online. Available from internet: <http://navi.city.hadano.kanagawa.jp/kouen/dl/zen.pdf> (downloaded on 2005-9-30)

(加藤: 神奈川県立生命の星・地球博物館,
重永: 日本ツル・コウノトリネットワーク)